

## 大分市南地区における複合文化交流施設の諸機能に関する研究 (その2)

正会員 牧田武\*  
同 矢野佑一\* 同 佐藤誠治\*\*  
同 小林祐司\*\*\* 同 姫野由香\*\*\*\*

公共施設 土地区画整理事業 市民アンケート

## 1. 研究の背景と目的

本稿では、大分市内における既存公共施設の現状調査および公共施設内容に関する市民意向調査を行う。その1で明らかとなった、大分駅南地区の複合文化交流施設における大分市の関連部局の考える施設内容、既存公共施設の現状からみた不足機能を受けて、市民の必要としている機能という視点を加え、三つの視点から複合文化交流施設の施設内容を検討し、今後の施設計画の方向性を明らかにすることを本研究の目的とする。

## 2. 複合文化交流施設に関する市民アンケート

従来の公共施設計画は市や県など行政が主体となった計画・建設が行われてきた。昨今の住民参加のまちづくりや民学産官の連携など、自治体以外の主体の積極的な参画による施設計画等が望まれていると言える。複合文化交流施設計画においても、広く市民の意向を把握し、その結果から必要な機能を抽出することは極めて意義の高いことである。平成18年11月の3週間にわたり大分市と共同で「大分駅南地区に新しく計画している公共施設に関する市民意向調査」(以下市民アンケート)を実施した。市民の考える大分市内の既存公共施設に対する問題点や課題、新しい施設整備のあり方を調査する。これにより、大分駅南地区に計画されている複合文化交流施設への市民意見を反映することを目的とする。

## (アンケート調査概要)

1. 調査方法：郵送配布
2. 調査対象： 無作為に抽出された大分市民 2,000名(10歳代以上の男女)  
大分市ホームページ公開による回答者 6名  
大分市市政モニター 96名 合計 2,102名
3. 配布・回収方法：調査対象・・・郵送による配布・回収調査対象・・・大分市によるサンプル回収
4. 調査経過：2006年11月1日 配布開始 11月15日 回収締め切り
5. 回収結果：調査対象 534通(回収率 26.7%)  
調査対象 6通 調査対象 60通 合計 600通

## (アンケート調査の内容)

- 問1. 属性について
- 問2. 公共施設の利用状況について
- 問3. 大分市中心部の施設の充実および役割について
- 問4. 新しい大分駅南の公共施設を整備するときの大分市と民間との関わりについて。
- 問5. 新しい大分駅南の公共施設に求める民間機能について
- 問6. 新しい大分駅南公共施設に必要と思われる公共的機能は何ですか。
- 問7. 新しい大分駅南の公共施設が完成した場合、その建物や周辺でどのような活動をしたいと思いませんか。
- 問8. 新しい大分駅南の公共施設にどの程度期待しますか。
- 問9. 新しい大分駅南の公共施設を整備する場合、どのような点が重要であると思いませんか。
- 問10. 新しい大分駅南の公共施設の機能に対するイメージやアイデアがあれば、回答用紙に記入して下さい。

アンケート調査の分析は各設問ごとの単純集計および、職業・年齢などの詳細ごとに各設問を分析するクロス集計によりおこなう。以下に分析をもとにした市民アンケートの考察を示す。

## 求められる機能や空間について

「公園緑地等うおいと憩いの空間」を回答者全体の56.0%が必要であると回答した結果から、現在の大分市中心部(駅南地区を含む)において行うことのできないと考えている、憩いや潤いの空間をシンボルロードの整備などと一体的に行う必要があると言える。これは、各世代において指示されており、とりわけシンボルロードとの関連が深い内容と推察される。また、現状の機能だけではなく、それらに付加する形で商業的機能、都市的機能、文化的・芸術的機能を求めていることがわかった。さらに、その他の機能で「駐車場」を回答者の全体の66.8%が必要であると回答した結果から、交通アクセス、利便性向上に不可欠な機能の効果的な配置も考慮する必要があるといえる。

## 施設及び周辺環境との関係について

周辺環境においては、商業機能の充実、大学等の研究機関との連携による都市型産業の育成を行うことの

できる環境づくりおよび交流拠点、福祉や健康に資する福祉機能、サポート機能の充実、商業機能などと連携した交通システム構築が求められているといえる。

### 施設における機能について

求められている施設の機能を以下にまとめる。

- ・ 憩い、潤いの空間づくり、多目的広場など緑を活かした空間づくり
- ・ 民間と連携した商業機能の充実
- ・ 用途を限定しない多用途でフレキシブルな構成
- ・ 文化や芸術活動の拠点となる機能の充実
- ・ 福祉機能の充実
- ・ 付帯施設の充実（交通機能、金融機関、生活利便施設）

民間と連携した商業機能の充実については、施設内部で充実を図るのか、あるいは周辺環境との連携により実現をするのかを検討する必要がある。

### 世代別の傾向について

世代間によって必要と感じている機能に差があることがわかった。特に年代と情報発信機能、産業・研究拠点機能等、保健・福祉、その他の活動空間等の関係については、それぞれの世代の自身の取り巻く環境に関連の深い機能を選択する傾向がみとれた。

### 公共施設に対する現状意識について

大分市の公共施設の現状意識については「十分間に合っている」と回答した割合は 27.3%で、「施設が少ない」と回答した人は 21.7%、「施設はあるが不満」と回答した人が 23.8%という結果を得られた。それぞれ多く、意見が分かれているといえる。したがって、諸機能の計画に際しては、不足機能等を精査し検討することが必要であるといえる。

以上の考察から、求められる機能や周辺環境について図1に模式図を示す。

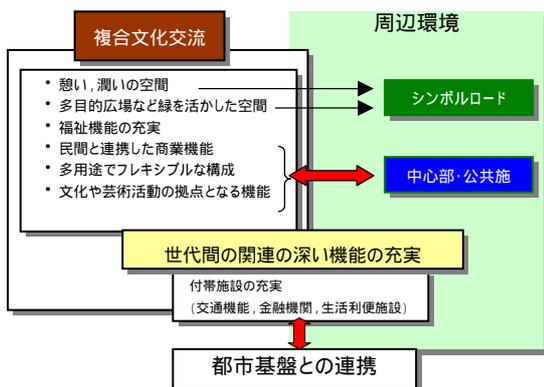


図1 アンケート結果模式図

### 3. 総括

その1及び本稿で得られた複合文化交流施設における大分市のコンセプト、既存施設の不足機能、市民ニーズ、それぞれから得られた結果を以下にまとめる。

大分市の施設コンセプトとして主に、大分都心の新しい顔・国際交流、芸術文化、情報、福祉、産官学連携などといった機能が挙げられている。

既存公共施設の現状からみた不足機能として、大規模な多目的ホール、情報・福祉機能、休憩をしたり余暇を過ごすような機能を併設した施設が挙げられる。

市民ニーズとして、シンボルロードと一体になった憩いや潤いの空間、民間との連携、福祉機能の充実、駐車場などの付帯機能の充実といった点が求められている。

以上のように三者の間には合致している点が多く存在するが、一方で相違点も存在し、意見の統一が行われていない(概略図を以下の図2に示す)。今後、具体的な施設内容が決定していく段階でこれらの意見の統一を図っていく必要があると考えられる。具体的には大分市と市民の間で意見交換やワークショップ等を行っていく方法が考えられる。

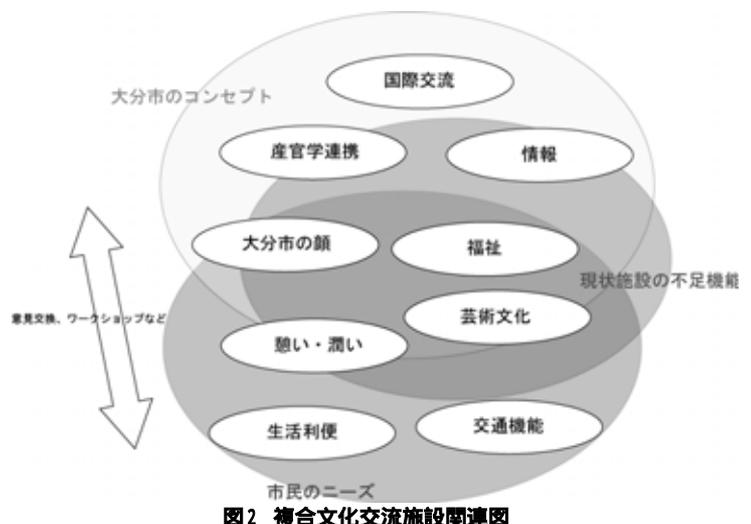


図2 複合文化交流施設関連図

#### 【参考文献】

- 1) 幸健太郎, 片山義広: 大分市の都市軸形成に関する考察 - 世界の都市軸から - 日本建築学会計画系論文集 p.757-759 2006.9
- 2) 小島徳裕: 大分駅南土地画整理事業地区内における土地利用変化と諸機能立地のありかたについて, 平成16年度大分大学都市計画研究室修士論文

\* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程  
 \*\* 大分大学 副学長・工博  
 \*\*\* 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 准教授・工博  
 \*\*\*\* 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助教・工博

\* Graduate Student, Master's Course, Graduate school of Eng., Oita Univ.  
 \*\* Vice-President, Oita Univ., Dr. Eng.  
 \*\*\* Associate Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.  
 \*\*\*\* Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.